

## シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン①

職藝学院

教授 渡邊美保子

### ラベンダーセージ

ラベンダーセージは、宿根サルビアの品種インディゴ・スパイヤーの通称名です。宿根サルビアには様々な種類がありますが、特に、ラベンダーセージは花壇の後方に植栽する草丈の高い宿根草として、一株植えるとドキッとするぐらい見栄えのする品種です。ラベンダー色の鮮やかな紫色の小花が花茎に群がるようにたくさんつき、草丈の高さも手伝ってダイナミックな彩りを楽しむことができます。



写真1 ラベンダーセージ6月初旬

咲き始めは6月の初め頃で、その頃の花の色は控えめな淡い紫色で、草丈も60cmほどですが（写真1）、季節が進むにつれて、どんどん花茎が伸び夏の盛りには1.5mを越えてしまいます。同時に紫色の花穂もぐんぐん伸びて、花につやがでてくるようになります。また、花が咲き進むにつれて花穂がくねくねと波打ち、踊っているように見えます（写真2）。



写真2 ラベンダーセージ10月

宿根草の中でもこれほどの七変化を演じてくれる花はないでしょう。

他の宿根サルビアと同様に、日当たりを好み、水はけの良い土壌でよく育ち、寒さに強く乾燥にもよく耐えます。葉をこするとさわやかな香りがあり、この香りはむしろ虫が嫌がるようで病害虫にも強い宿根草です。また、草丈が高くなる割には支柱の必要はありません。長くお花を楽しむために一つだけ定期的なことは、切り戻しのお手入れです。くねくねと波打ってきたら、そろそろ花が咲ききった合図です。この頃になりましたら、花穂とそのずっと下の方にある葉を2枚摘み取るつもりで一節ほど切り戻します。すると、節から再び花茎が伸びてきて花を咲かせてくれます。草丈を抑えたい時は、全体の高さの半分ぐらいに切り戻しをしても大丈夫なほど、勢いのある植物です。

組み合わせは、隣にホソバイトススキ、宿根フロックスなどの宿根草、一年草では、その手前にセンニチコウの赤色の品種や黄色い花を咲かせるメランポジウムなどがおすすめです（写真3）。11月下旬になっても葉の勢いはまだまだありますので、暴れた枝だけを刈り取り、できるだけ葉を残して根に栄養分を蓄えさせて冬越しをさせますと、翌年も早い時期から花を咲かせてくれます。



写真3 ラベンダーセージ中央